

Ⅱ 関西支所における研究課題の取り組み

関西支所における研究課題の取り組み

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所は、森林・林業・木材産業に係わる中核的な研究機関として、科学的知識の集積を図りながら、行政や社会的なニーズに応えるために分野横断的・総合的研究をいっそう推進することとなっています。そのため平成 28 年度から新たに第 4 期中長期計画（～令和 2 年度）を策定し、4 つの重点課題と 9 つの戦略課題を設定して研究を推進しています。関西支所では、以下の 4 つの重点課題、7 つの戦略課題に勢力を投入しています。

ア 森林の多面的機能の高度発揮に向けた森林管理技術の開発

アア 森林生態系を活用した治山技術の高度化と防災・減災技術の開発

アイ 気候変動の影響評価技術の高度化と適応・緩和技術の開発

アウ 生物多様性の保全等に配慮した森林管理技術の開発

イ 国産材の安定供給に向けた持続的林業システムの開発

イア 持続的かつ効率的な森林施業及び林業生産技術の開発

イイ 多様な森林資源の活用に対応した木材供給システムの開発

ウ 木材及び木質資源の利用技術の開発

ウイ 未利用木質資源の有用物質への変換及び利用技術の開発

エ 森林生物の利用技術の高度化と林木育種による多様な品種開発及び育種基盤技術の強化

エア 生物機能の解明による森林資源の新たな有効活用技術の高度化

関西支所では、おもに森林の多面的機能の高度発揮に関わる分野、人工林の管理・保育技術に関する分野の研究、および木材利用の分野の研究を実施しています。林木育種、遺伝に関する分野の研究員は配置されていません。そのため林業現場や自然フィールドに密着した研究課題を中心に、57 課題と 3 つの基盤事業を行っています（P7 ～の課題一覧表参照）。

個々の研究課題の予算規模や担当者数、投入勢力は様々ですが、多くの課題は本所（ほか大学など他機関）の研究員が主査（課題責任者）を務めており、関西支所では課題の一部を分担しています。57 課題の予算区分別の内訳は、交付金一般研究費が 15 課題、森林総研の所内プロジェクト（交付金プロジェクト）が 13 課題で、残り 29 課題が外部資金です。外部資金の中では、科学研究費助成事業が 13 課題と多く、そのほか農林水産省、環境省、民間財団の研究助成金などを獲得しています。

関西支所で主査を担当しているか、または多くの勢力を投じ重点的に行っている研究課題としては、以下が挙げられます。これらは、バラ科樹木への大きな影響が懸念される外来害虫の防除法を開発する課題、および林業の低コスト化を図るための新技術や、里山・中山間地域において広葉樹の有効利用を図るための技術を提案する課題です。林業事業者や市民団体などへの成果の普及を実現し、地域における「橋渡し機能」を果たすことが期待されています。

アウ bPF60 サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除法の開発（P21 参照）

イア aPF15 優良苗の安定供給と下刈り省力化による一貫作業システム体系の開発（P23 参照）

イア aPS2 広葉樹も多い中山間地で未利用資源をむだなく循環利用する方策の提案（P24 参照）

